

平成 30 年度 町民意向調査結果（概要版）

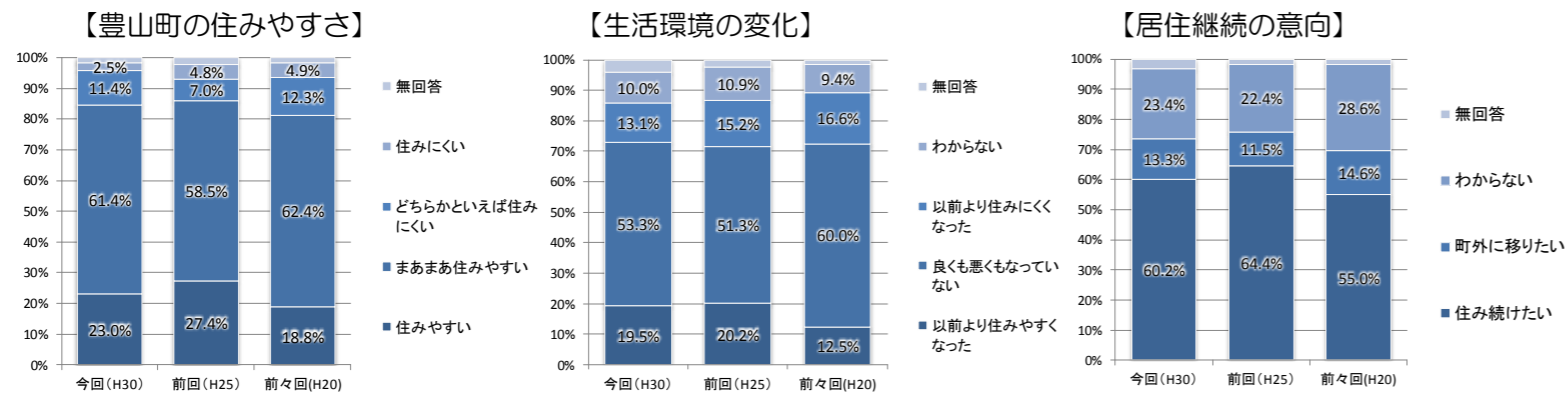
1 一般的な意識の変化について

・まちの住みやすさや生活環境の変化等の認識について、この10か年間の推移で整理します。

●豊山町の住みやすさや居住継続意向

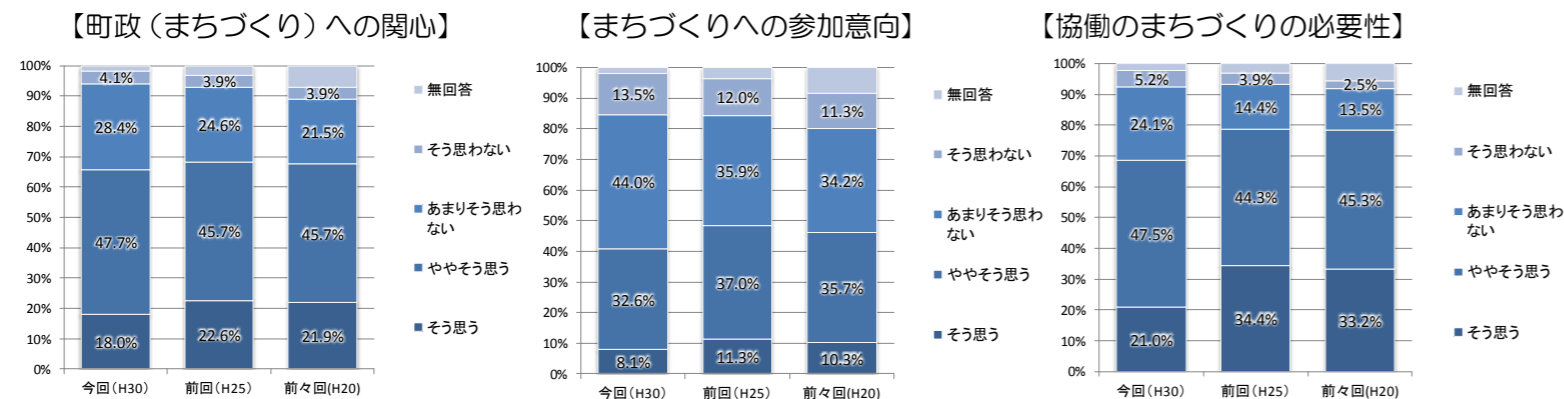
町の住みやすさについては「住みやすい」が23.0%、「まあまあ住みやすい」が61.4%、あわせて84.4%。前回調査（それぞれ27.4%、58.5%、あわせて85.9%）からやや低下。最近の生活環境の変化について、「以前よりも住みやすくなった」が19.5%。前回調査（20.2%）からやや低下。今後の居住意向について、「住み続けたい」が60.2%。前回調査（64.4%）から3.2ポイント減少。H20年からH25年で上昇していた、住みやすさの評価や居住継続意向が、H25年からH30年では低下している。

- 若年層ほど評価が低い傾向。 ○ 家族人数が多いほど評価が低い傾向。
- 以前よりも住みやすくなった理由は「商業施設の充実」「公共交通の便の充実」が多い。
- 以前よりも住みにくくなった理由は「田畑の減少・住宅の増加」「交通量の増加」が多い。
- 町外に移りたい理由は「交通の便が良くない」が突出。「教育・子育て環境が良くない」「道路・下水道などの都市基盤整備が遅れている」が続く。



●協働のまちづくりに対する意識

町政（まちづくり）に関しては、65.7%が関心を持っている。前回調査（68.3%）と比べてやや低下。まちづくり活動への参加意向については、40.7%に参加意向がある。前回調査（48.3%）から7.4ポイント低下。協働のまちづくりの必要性については68.5%が認識している。前回調査（78.7%）から10.2ポイント低下。協働のまちづくりに関する認識についても、増加傾向から減少傾向に転じている。

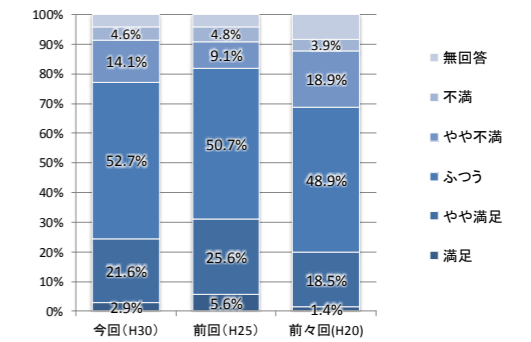


●町政全般(まちづくり)に対する満足度

町政全般（まちづくり）に対する満足度では、「満足」が2.9%、「やや満足」が21.6%、あわせて24.5%が満足と回答している。前回調査（31.2%）と比べると6.7ポイント低下。

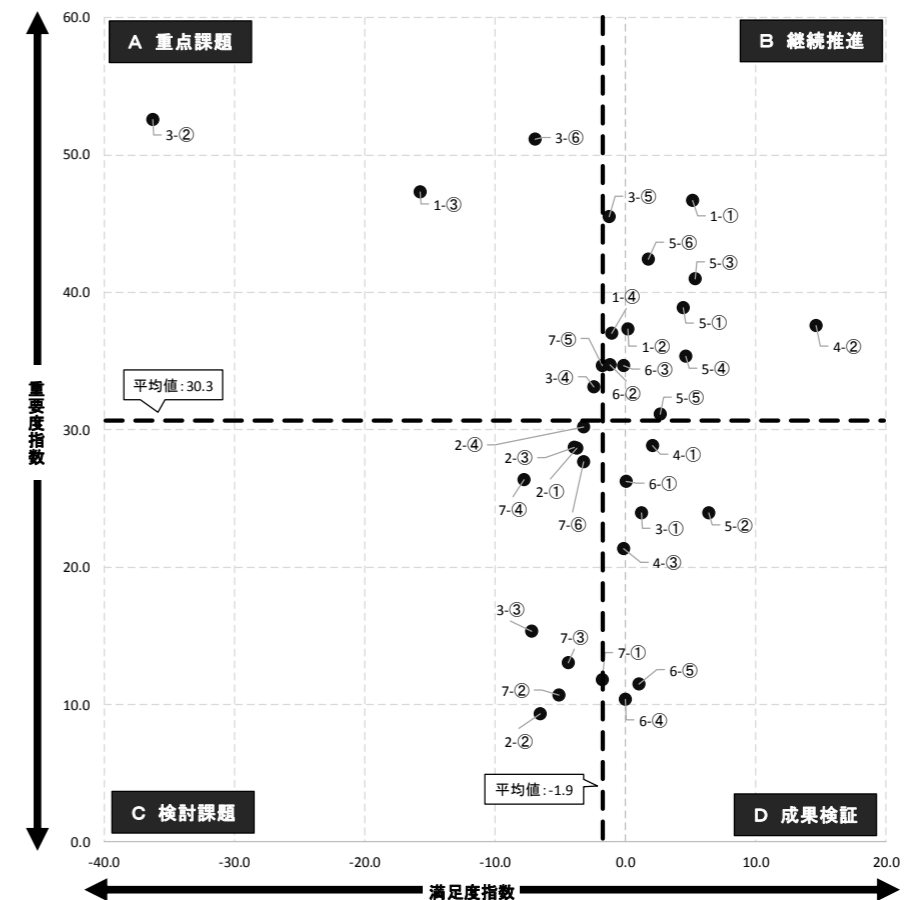
- 20歳代と40歳代の不満度が高い。
- 家族人数・家族構成別では4人世帯・二世帯世帯の不満足度が高い。

【町政全般(まちづくり)の満足度】



2 第4次後期基本計画の施策評価(満足度×重要度)

・重要度指数が高く満足度指数が低い「A重点課題」に該当し、重点的な対応が望まれると想定される施策は、「利便性の高い公共交通」、「安全で快適に利用できる道づくり」、「美しい環境衛生の維持・保全」、「防犯・交通安全体制の強化・意識の高揚」の4施策。



1-①	適切な土地の使い方	5-①	地域の医療体制の充実・健康づくり
1-②	公園・緑地の維持管理や緑の道づくり	5-②	地域の福祉活動
1-③	安全で快適に利用できる道づくり	5-③	安心して子どもを産み育てるまちづくり
1-④	上水道と下水道の維持・管理と整備	5-④	高齢者の生活支援
2-①	商工場の振興・新しい産業の誘致	5-⑤	障がい者の生活支援や環境の整備
2-②	農業の振興	5-⑥	時代に合った社会保障制度の充実
2-③	観光振興・町の魅力の発信	6-①	生涯学習のための環境づくり
2-④	安定した雇用の確保や勤労者福祉	6-②	家庭や地域の教育向上
3-①	良好な住宅と住環境の整備	6-③	地域とも連携した学校教育
3-②	利便性の高い公共交通	6-④	文化財の保護と活用
3-③	良好な街並みづくり	6-⑤	芸術・文化活動
3-④	美しい環境衛生の維持・保全	7-①	多様な人と組織が関わり、ともにつくる地域社会
3-⑤	防災対策の強化・意識の高揚	7-②	自治会・コミュニティ活動
3-⑥	防犯・交通安全体制の強化・意識の高揚	7-③	国際交流の推進
4-①	自然環境の保全	7-④	効率的で適正な行政運営
4-②	ごみの減量化・再資源化	7-⑤	安定した財源確保と健全な財政運営
4-③	「省エネルギー」の普及	7-⑥	近隣市町をはじめとした広報連携の強化